

雲天通信

発行＝雲天友の会 949-6553 新潟県南魚沼市清水 小野塚忠男方 tel:0257-82-3473 fax:0257-82-4581

「雲天から」近況報告

小野塚 和彦

九月の大型台風被害はありませんでしたか。清水はかなりの大雨でした。村は、大きな被害はありませんでしたが、水害の警戒で大騒ぎだったそうです。

婆ちゃんの葬儀からこれまで会員の皆様にはお心遣いをいただき、大変ありがたうございました。身内の予定では、十一月十六日に一年忌を行う予定でいます。お盆を中心に墓参までしていただく方もあり、大変ありがたうございました。

さて、雲天の営業も奈穂子母ちゃんカラーになりつつあり、料理やサービスも試行錯誤しながら進めています。これまで、量が多すぎるとの指摘もあり、奈穂子母ちゃんは量を抑えて盛り付けや新しい食材などに工夫を加えようとしています。

料理などが一人よがりにならないように、皆さんの料理に対する意見、アイデア、設備の改良点などを教えてくださるようお願いいたします。

お客さん方は、料理をみんな食べてくださるのですが、婆ちゃんドッパリ料理を見てきた私は「足りなくはないか」「味はどうか満足していただいたか」など、やや不安もあるのです。

知り合いのばあちゃん達の手を借りながら、来て下さったお客さんに精いっぱいサービスをしようと一生懸命に動いています。サービスのお酒を振舞うタイムイングやどこまでサービスでよいのか等、難しくまだまだ反省を繰り返しています。

家族営業はそのまま、じいちゃんが鮎の櫛うちをし、孫の岳がお客さんまで料理を運ぶ手伝いをしています。

今年のキノコの状況について、少しお話しします。

毎年、九月に夏休みの一部をずらして取得して、キノコ採りをしているのですが、今年も山に入つたものの、どうもまだ天然キノコの出が良くないようです。今後の気候や山に入れるかにかかっていますが、じいちゃんの原木栽培のキノコもようやく出始めていることから、今後に期待できると思っています。

特に、この九月の彼岸のお客さんには、採れたてのキノコ、中でも今年の初物の舞茸やマスタケを食べてもらえたのは私どもにとってもラッキーでした。

丁度、早稲田のハイキングクラブの山小屋祭りを雲天で開催していただき、料理に出せたのでマスタケの説明をして食べてもらいました。出たばかりの若いマスタケは、ここでは赤ん坊と呼んでいますが、赤ちゃんのように柔らかく、しつとりしているのです。茹でた

てをお刺身のようにスライスして、山葵醤油で食べてもらいましたが、なかなか好評でした。

若いマスタケが毎回提供できれば良いのですが、天然物はタイムイングと量が安定せず、難しいのです。食べることでできた人は、かなり運の良い人と思います。また、その後、白い舞茸も採れ、翌日のお客さんに初物を出すことができました。

じいちゃんの舞茸も始まりそうです。それから、雲天はこれからキノコ料理本番のシーズンに向かいます。十月の予約も土日や連休を中心にポツポツ入っています。

じいちゃんも元気にしています。皆さんのお越しをお待ちしております。



ブナハリタケ

(追伸)

山の状況について、少しお話しします。
清水峠方面は、今回の台風十八

号の大雨で東屋の沢が氾濫し土砂がてんこ盛りなっていました。砂防ダム工事の業者が片付けてくれました。さらに奥の牛首付近の沢がまた大荒れに荒れ、もうしばらく車も通れませんが、檜倉沢も大荒れし、工事資材の鉄パイプが散乱していました。

キノコ採りに行く山も、最近の気候変動の影響か、土砂崩れがところどころあります。数百年もの檜やブナの木が根こそぎ崩れているところが、かなりあります。

また、止まりつつあるものの檜枯れ病が舞茸の出るような大きな檜の木に目立ちます。私自身、やっとな目的の山の木にたどり着いたと思ったら木が枯れていたということもあり、かなりショックを受けています。

九月二十三日に行ってきた人の話では、巻機山の方もヌクビ沢の天狗の真横付近でかなりエグレ、難儀したとのことでした。また米子沢もまだ残雪が多く、危険とのことでした。今後、行かれる方は十分注意してください。



マスタケ

「雲天から」 新かあちゃんとしての一年

小野塚 奈穂子

ばあちゃんのことと皆さんにお世話になりました。ありがとうございました。冬の間、営業を休ませてもらい、三月末から再開しました。

今年の春は、いつまでも寒さが続いて、山菜の出始めが遅かったです。

山菜は、ゆでて時間が経つと味が変わってしまうので、茹でたてを食べてもらうことにこだわりました。またお出しするタイミングを考えましたので美味しく食べてもらえたと思います。

昨年は、「季節のものを美味しく食べていただく」ことをテーマにしていたのですが、雲天は山菜の宿ですから、季節にこだわらずに山菜をお出ししたほうが良いのではないかと考えて、塩漬け、冷凍等多めに保存しました。

先日、保存していた冷凍のコゴメを調理してお出ししたところ、「保存の山菜がこんなに美味しいとは思わなかった。春に採れたての山菜を食べに来ます」というお客さんがいらつしやいました。

また新しい分野のお客さんでは、横浜のカヌーのグループがいらつしやいました。

隅田さんのお兄ちゃんにお世話になって開設してもらったホームページで鈴木太平さんからご指導を受け、お知らせや写真を入れたりしています。その結果か、七月ころからホームページを見て、予約や問い合わせが入るようになり、若い世代の方も泊まるように

なりました。私が写真撮影の腕を上げ、もつと良い写真を載せられるように頑張りたいと思います。

七月の会員総会で「お風呂のタイルが度々剥がれているのもつと良く修理したい」とお話しして、水野先生から「内側の全部を新しいタイルに張り替えればまだ大丈夫」とご意見をいただきました。早速七月に工事に入り、洗い場の方も目についた部分を張り替えました。費用は若干かかりましたが、きれいになりました。雲天で一番改善が必要な場所と感じていましたので、工事が終わってほっとしています。

八月は、毎年来ていただいているアコーデオンのグループ、牧島先生のゼミ、倉持先生の太鼓の合宿、東大ワングルの小屋祭、早稲田のハイキングなど、昨年より大勢の方々から泊まっていたいただきました。

更に八月末にあきる野市の山の会の団体さんが谷川岳を下山して宿泊し、翌日は巻機ではなく、飯土山の登山に向かいました。登る山も色々変わってきているのかもしれない。

今年の八月は、ばあちゃんの新盆でもありましたので、忙しさに追われ、あつという間に終わったように思えます。私自身の能力不足で予約のお客さんをお世話するのが精いっぱい、質的に十分でなかったのではないかと反省しています。

料理では、夏は山菜の少ない時期です。夏野菜を美味しく食べてもらうことを考え、出入りの曳田屋さんだけでなく、度々野菜市に足を運んでいきます。色々な野菜があり、どんな風に

食べてもらうか考えを巡らせています。コリンキという生カボチャの漬物は、歯ごたえも良く好評でした。ばあちゃんの得意だった油味噌も度々作りました。入れる野菜をズッキーニやモロコシと色々変えてみました。

また今年は、ばあちゃんのところの花をあげられるように、庭に沢山の花が咲くように、庭の散歩も楽しんでもらえたらと敷地に少しずつ手をかけてきました。春からモクレン、ライラック、ツツジ等の木を植え、アジサイ、菊、タチアオイを植えました。雲天入口にはヒマワリがかわいく咲きました。自然のアザミの花もきれいでした。

庭の広いところはじいちゃんが草刈機できれいにしてくれませんが、色々な草木を植えたところは自分の手で少しずつ草取りをしています。まだ楽しんでもらえるほど十分に手が入ったわけではありませんが、肥料をいれたり、土を入れたり少しづつ進めています。秋には来春用にユリや水仙などの球根を植えたいと考えています。水仙は、春一番に咲きますので春の遅い清水では欠かせません。自分でも楽しみなが長い目で庭造りをして行きたいと思えます。

登山の雑誌を出している地球丸という出版会社から「巻機山について書かれる登山家の大倉先生という方が以前雲天に泊まられて『色々なキノコ料理がよかった』ということから雲天を紹介して下さる」ということから「トランピン」という雑誌に載せてくださることになりました。



トランピン Vol.14 記事内容

友の会総会を終えて

会長 玉木 強

去る七月六日(土) 雲天友の会が開催され、今年は十余名の会員の方々に参加頂きました。

珍しい地酒を飲みながら、各界で活躍の皆さんの貴重な体験談に花が咲きました。

翌七日に第二十三期(自平成二十四年四月一日至平成二十五年三月三十一日) 雲天友の会総会が開かれ、会計報告、事業計画及び将来的なヴィジョンが協議されました。具体的な内容に付きましては和彦さん、奈穂子さんの書

かれた通りです。

秋のお彼岸も過ぎ、稲刈りのシーズンとなりました。ここ南魚沼ではスキートリフトの試運転を兼ねているのでしようか、リフトに稲架掛し、空中を移動させながらゆっくり乾燥させるお米が有名になっているようです。

機会がありましたら是非召し上がってください。

清水の高い空と秋の恵みが、皆様のお越しをお待ちしております。

和彦さん、奈穂子さんに成り代わりまして、ちよつびり宣伝させて頂きました。

友の会の今後の課題

理事長 三田 育雄

友の会は、一九九〇年(平成二年)に、雲天が古民家を譲り受けて新宅の建設に取り組み際に結成されたものです。当時、南魚沼一帯は“東京都湯沢町”現象によって建築バブルが吹きまわっている中で、とうちゃんの一世代の大事業を応援すべく、三八六名もの有志が集まって新宅後援会がスタートしました。

以来、丸二十三年が経過し、この間二回にわたって会の存続を延長してきましたが、発足以来四半世紀、世代交代以降三年をむかえる平成二十六年(二十七年三月)をもって、会の解散が予定されております。

諸般の情勢、特に会員のみなさんが高齢化したり、お亡くなりになる方が増えている状況を考えるにつけ、区切りをつける時期だと考えております。

ただ、発足の経緯を考えるにつけ、解散をソフトランディングさせることは必須です。

なかならず、代替わり以降、まだ日が浅い雲天に過負担になるような事態は避けなければならぬことはいまでもありません。

特に、出資金の返済に関しては、十分配慮して行く必要があると考えております。

それから、今後の雲天の経営についても、安定したものになるように応援して行きたいと思っております。率直に言って中越地震以降雲天の経営は退潮を続けており、そういう状況の中で代替わりは、若夫婦、特に新かあちゃんの奈穂さんにはかなりの重圧になっているはずで。

それでも、彼女は、家の中の整理整頓、不具合のある備品や機器の更新、そして料理の刷新に、果敢に取り組んでいます。

先日は、老朽化した男湯の浴槽や洗い場のタイルを新しくするなど、思い切った手当をしました。

そんな状況もありますので、会員のみなさんには、雲天に足を運んでいただいて新かあちゃんを激励し、これからの雲天を切り盛りをして行く上での心構えや対策を助言していただきたいと思っております。

最近、新設したHPを見たり、昔のことを思い出したりしてやってみるお客さんが出てきているようですが、皆さまのお知り合いの方々にも、是非新雲天をご紹介ください。

会員のみなさんには、いづれ改めて、

ご相談させていただきませんが、雲天への倍旧のご理解、ご支援をいただきますようお願いいたします。

かあちゃんからの手紙

(新宅の設計者水野一郎さんへの手紙)

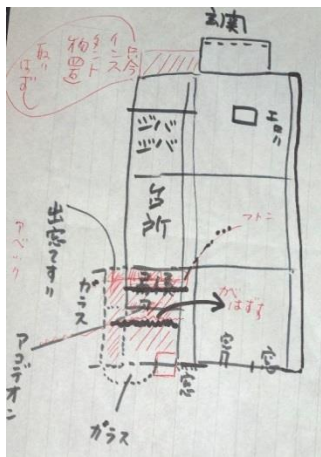
(手紙一) 五月十三日 岳(男の子)
が生まれ、今は可愛いさかりです。来年あたり少し部屋のこと考えてます。教えてください。まめでいて下さい。

雲天

(手紙二) 水野さん、おくさま ですね。この一年間沢山の本に出てこの建物をほめてます。その一部同封します。客足も多く、ようやくうまく路線にのりました。

(手紙三) どうしたらいいですか見て下さい。

(二階奥のセキレイの部屋増築部の略図が同封されているー左の写真)



(手紙四) 平成元年 新しい名前でスタートの新年。お元気ですか。先日夜電話したが夜は遅いのですね。仕事も忙しいことでせう。こちらも雪もあんなりなくスキー場が青くなりだしているようです。正月はワングルの現役、OBで十五〜六人来ました。ようやく屋敷の出口が決まりました。

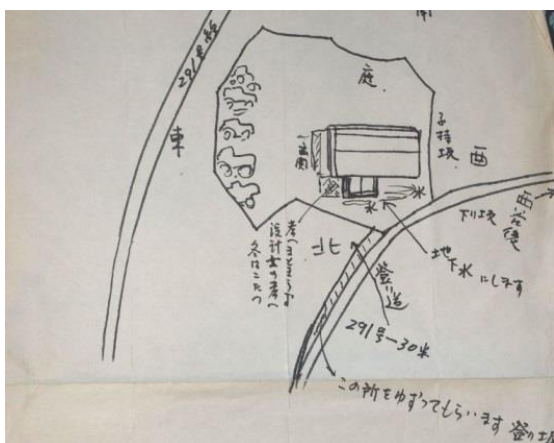
早速勝手に想像して書きました。水野流デザインにより決定する前に少しこちらの注文を書いてみます。出来たら地下高くして、地下に三ヶくらいの部屋を入れたらどうかと思いました。古い家の二階(座敷)はどうか考えます。台所と食堂の地下に風呂と思えます。古い家はイロリの上だけ。家族の部屋を取りたいと思えますがどうせう。音楽するピアノなど地下にと思えます。

雪も少くないので春休みにこらつして下さい。十二日は巻機山のことです。原さんが会社の人とくるようです。かしこ 久子

(次の図が同封されている。

建屋、庭、道路の概念図(ポンチ絵) 一階の概念図(ポンチ絵)

古い豪農の概念図(築一〇八年、総檜造り)





(お茶大ワンゲルOG 紛澤瑛子さんからの手紙)

こんにちは。いわひばり(お茶大ワンゲルOG会)の紛澤です。大昔の昭和五十一年に、大人十四人、子ども大小あわせて二十四人の大人数でお世話になった時の記録を引っ張り出して見たらおばさんからの手紙(私たちのだしたお礼状への返事)が載っていました。おばさんのお人柄がとてよく出ていて、懐かしさがこみあげて来ました。こんな手紙です。

だいこん菜が玄関いっばいにうろのいて置いてある。いよいよ菜めしのころとなりました。すっかり夏の客去つて十二〜三日居候のワンゲルの学生も息子と一緒に上京して、うそのような静かなマツムシの鳴く晩です。

今日はご丁寧なお手紙ありがとうございました。今年雨が多く、山村の作はあまりよくなく、菜の葉はどれも

上手に大きくなりました。そのかぶ菜の洗うところは冬が来るわけです。自然は美しくいいが、その反面きびしい生活もあります。春のごこめの芽、車の音をきくとき、生きかえを新しくするわけです。どうかまた遊びに来てください。「子連れ」もちろん同じメンバーで、年中行事にして下さい。

うさぎのつづも出番が終わって、今はゆうがな毎日です。皆様によりよくお伝えください。やはりすばらしいママさんぶり、たかぶらない自然の好きなワンゲルの衆。五十歳の奥様。大金持ちなのに百姓のおかかみたいなおくさん。さまざま自然の方々。すばらしいとはこのことです。私は見た目美しいのは好みません。夏一番のお客様でした。待ってます。お元気でいて下さい。かしこ

二十三年目の新宅

TWVOB 水野 一郎

山菜料理の大切な技の一つである新鮮でシャープな味を多彩に出してきた新世代の和彦君・奈穂子さんのおもてなしにびびりました。偉大なあちやんの後を継いでさぞかしプレッシャーの多いことと想像していたが、おっとりこい違う雰囲気と味をきつちり打ち出して私達の酒宴を盛り上げた。同席したとうちゃんも若夫婦に心配なしといったニコニコ顔でゆつたりと座

つておられ、さらに私達を喜ばせた。心地良く酔いながら座敷の空間を眺めているうちに、二十三年前の雲天の宿新築時の興奮が想い出されてきた。設計に際してかあちゃんから自分の出身地にごつつい民家があるのを見て欲しい。出来ることなら移築して使いたいという提案があり、早速現地向かった。大きな農家なのかと想像していたが、全く違った庄屋のような品格と文化力を備えた格式高い家屋だった。特に素晴らしかったのがインテリア、太く上質の木材を正確に美しく組み、つややかな拭漆をほどこした天井の高い大きな空間があった。その中に板戸、ガラス戸、襖などが狂いなく嵌め込まれ、さらに一流の匠による技術とデザインを見せる欄間の彫り物やガラス絵が飾られていた。



座敷に前室(ノリモノドウシ)がある間取りやナカマの神棚も格式の高さを示していた。移築、再利用は新築より高価になるが、魚沼の宝のような建物ゆえに、とうちゃんかあちゃんと共に譲り受けることを即断した。今でもその全てが健在で雲天の宿と

して愛され、信頼されているその変わらぬ古建築の空間に、新世代の新たな営みが入ってきたが、こういう継承が続くことで雲天の歴史が築かれてゆくように思えた。

事務局から

■友の会総会は七月七日に開催され、雲天の経営状況が報告されるとともに、昨年度の事業報告、本年度の事業計画が議論の上承認されました。また、雲天、清水の活性化等についても意見がかわされました。細部については同封の総会資料をご覧ください。

なお、玉木会長の報告のとおり、前日の夜には懇親会がもよおされました。

ご質問、ご意見がありましたらメール、FAXで左記にお寄せ下さい。
〒156-0054
世田谷区桜丘4-13-30

FAX 03-3420-3446

Eメール f_mit@nifty.com

三田 育雄

■それから、いつもお願いですが、住所変更をなさった方は、是非左記までご連絡下さい。なお現時点で、以下の九名の方の消息が不明です。ご存知の方はご一報ください。

新島二郎、奥野一子、加藤友理、斎藤千恵子、清水雄三、長岡矢枝、速水正人、八木原和代、若井道夫(敬称略)

■次号は来年四月発行予定です。会員の皆様からの寄稿を歓迎いたします。メール、FAXで右記にお寄せいただければ幸いです。